



東日本ユニオンにいがた

http://niigatachihon.yukigesho.com/

「モビリティ・サービスシステムにおける体制見直しについて」に対する検証の申し入れ 団体交渉 客・サービス・働きがいの観点から検証

新潟地本は8月28日、2024年度申14号・「モビリティ・サービスシステムにおける体制見直しについて」に対する検証の申し入れの団体交渉を行いました。今年3月に施行された同施策により、乗務員の就業業務融合行路の新たな設定をはじめ、車掌専属交番

の体制見直し、ワンマン列車の拡大など社員の労働条件・労働環境は大きく変化しました。支社側が目指すとした姿と現場実態との乖離も明らかになっているなか、安全・サービス・働きがいの観点から検証を行いました。

施策を実施しての成果と課題について

「モビリティ・サービスシステムにおける体制見直し」を実施した上で、成果と課題を明らかにするよう求めました。支社側は、業務融合を進める中で社員が成長し、それを実感できたこと、そのようなことができる環境を作れたことが成果であると回答しました。

全ドア開扉区間拡大に向けてワンマンミラーの視認性確認は行わず

ワンマン列車の全ドア開扉拡大に伴い、2両目の乗降の視認性は全ての駅で確認したのかを質すと、全ドア開扉拡大にあたっての確認はしていないと回答しました。その上で、ワンマン運転を導入する時に2両分確認できることを確かめているが、年数が経過する中で確認し辛くなっている箇所は、乗務員申告を元に修繕しているとした。どこか問うと、直近では神山駅で行い、あわせて水原線全駅で確認を行った



ら長く離れていた社員は苦勞しているという声も聞いているとしました。課題については輸送総合システムの問題があり、乗務室毎に紐付けされていくため柔軟な勤務配ができないとしました。具体的な内容を質すと、新潟新幹線運輸区の社員が新潟駅で列車扱いを行っているが、新幹線統括本部と新潟支社で所属が異なるため行路内で「駅業務」が設定できず、柔軟にできていないとしました。

絡はなく、会社が学校のホームページ等で確認してワンマン解除等を決定しているとした。テストによる増結は行わないのかを問うと支社側は、増結は行わずワンマン解除のみであるが、ダイヤ改正以降はそれも行うのではないとしました。

駅業務はステーションバイブルで教育 新入社員と乗務員とで違いはない

乗務員の駅業務との相互運用における教育場面において、ステーションバイブルを使用しているのかを質しました。支社側は、長岡駅における列車扱いはステーションバイブルを使用して教育をし、新潟駅、酒田駅も基本的に教育はステーションバイブルを使用すると回答しました。

今後増結する予定はないのかを質すと、全くない訳ではなく、状況を見て判断していくとしました。乗り残しは仕方がないという認識なのかを質すと、何らかのイベントにより発生する乗り残しと同様の扱いであり仕方がないと考えを示しました。

組合側は、定期的に駅業務に入る訳ではないことから、教育を終えても次に駅業務を行うのは半年後という場合もあり、期間が空くことで忘れてしまい、また同じことを教育されている実態を挙げて、教育のあり方に課題があることを指摘しました。支社側は、ステーションバイブルを基本として教育していく環境を整えていくとしました。



運動士相互運用行路の長岡駅新幹線列車扱い勤務を指定される社員が固苦情があったとしました。必要ない体制は確保しているとした支社側に対して具体的な内容を質すと、改札でホーム上を映すディスプレイを見ながら異常時等の放送をしていると回答しました。その上で、列車のホーム進入時は自動放送が流れ、LEDなども活用できているので体制はとれている

定され不公平感が広がっていることを指摘すると支社側は、EC3組に入らないと列車扱いを行う勤務に入らないので見習いもできないと認めました。特定の社員が同じ交番を乗務することになり固定されている実態をどのように考えているのかを質すと、現在試用期間であり、本実施までには必要な教育を行っていくとした。

現行でどこまで教育されているのか具体的な数値の提示を求めると、列車扱い教育修了者は運動士19名、車掌8名であり、行路日数が13日なので教育する目標数とすれば20名程度で考えていると明らか

にししました。相互運用の進捗状況を質すと、庄内統括センターで半数程度、長岡で35%、新潟90%、新潟30%位であり、職場規模や行路数の違いにより差が出ているとしました。その上で、いつまで何人養成すると決めて運用している訳ではなく、養成途中で乗務できなくなっただけもあるが100%を目指すとしました。社員の声を把握しているか問うと、業務融合に苦勞しているとの声を聞く一方で、新たなチャレンジができて成長できる喜びを感じているという声も聞いているとしました。

自動放送・LED表示などにより長岡駅の案内体制はとれている

長岡駅において、お客さまへの放送案内を原則廃止したことに対する苦情はあるのかを質しました。支社側は、特急「しらゆき」が遅れた際の放送がなかったことについて1件苦情があったとしました。必要ない体制は確保しているとした支社側に対して具体的な内容を質すと、改札でホーム上を映すディスプレイを見ながら異常時等の放送をしていると回答しました。その上で、列車のホーム進入時は自動放送が流れ、LEDなども活用できているので体制はとれている

必要であり、様々な活用しながらお客さまへのサービスを提供していくとの考えを示しました。